

1. 瀬戸内の多様な海・浜辺

瀬戸内の景観については、造詣の深い奈良県立大学名誉教授の西田正憲氏が「穏やかな海に無数の島々が浮かぶ内海多島海景、川のように潮が流れる瀬戸景観、四国の冠雪の山並みや沿岸の奇妙な形の山々の山岳景観、自然海浜や白砂青松の海岸景観、社寺や城と一体となって自然にとけこむ集落景観、山あいの湾曲する入江にたたずむ港町景観、繊細な段々畑や傾斜畑の農業景観など、瀬戸内海は自然と歴史と文化が渾然となった重層的で多様な風景をみせてくれる。」と表現している通り、自然景観と文化的景観が織りなす多様な景観資源を有している地域である。この多様な景観の捉え方について同氏は「古代から中世の歌枕や近世の名所旧跡が多く、これらの伝統的風景観が累積していた。しかし、欧米人が日本を訪れ瀬戸内海を称賛し、西欧文明の元に生まれた近代的風景観をもたらした。」とあり、明治以降に人々がそのすばらしさに気づき始めたとのことである。

その瀬戸内を代表する多島海景は、当初は海岸などから眺めたシーン景、やや高所から眺めたパノラマ景、海上の船から眺めるシークエンス景としてとらえられたものが、昭和初期には鷺羽山等の高所から眺めるパノラマ景への転換を脇水鐵五郎や田村剛らが推奨し、瀬戸内海国立公園の誕生につながっている。

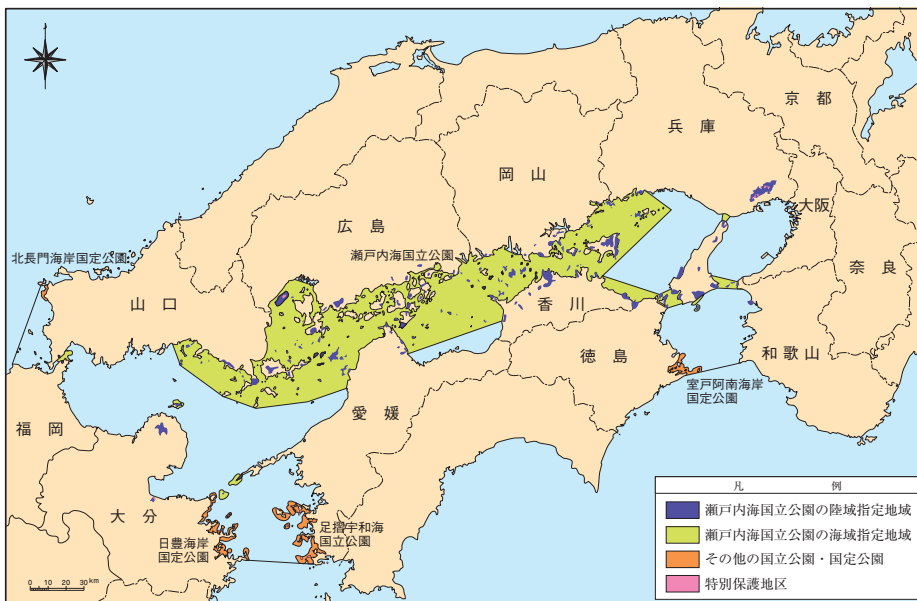
今回はこの瀬戸内の多様で豊かな景観資源のうち自然公園や親水空間などの自然景観について紹介し、集落、港町、農業等の文化的景観は次回紹介することとする。

(1) 自然公園

自然公園には、環境大臣が指定する国立公園・国定公園、都道府県知事が指定する都道府県立自然公園があり、いずれも自然環境の保護と快適で適正な利用が推進されている。

瀬戸内では指定範囲に海・浜辺がある自然公園は、環境省が管理する瀬戸内海国立公園、足摺宇和海国立公園、府県が管理する日豊海岸国定公園、国東半島県立自然公園、豊後水道県立自然公園（以上大分県）、佐田岬半島宇和海県立自然公園（愛媛県）、室戸阿南海岸国定公園（徳島県）、西有田県立自然公園、白崎海岸県立自然公園、煙樹海岸県立自然公園（以上和歌山県）がある。

国立公園と国定公園の配置図を図1-1に示す。



注：国立及び国定公園を图示。
出典：環境省資料より作成

図1-1 瀬戸内の主要自然公園配置図

1.瀬戸内海辞典、南々社、2007年、p.142

2.「瀬戸内海における多島海景の変遷と脇水鐵五郎や田村剛の視覚」ランドスケープ研究 1966年 60巻 5号 p.425-430

瀬戸内海国立公園

1934年に雲仙や霧島とともに我が国初の国立公園として指定され、数度にわたる区域の見直しを経て、陸域面積が約6万7千ha、海域を含めた総面積が約90万4千haに及び1府10県にまたがる日本一広大な国立公園である。

瀬戸内一帯は早くから文化が栄え、人と自然とが共存してきた地域であり、島々の段々畑や潮待ちの港町など、自然と暮らしが一体となった親しみやすい景観が特色の1つである。原生林などの大自然はないが、大小合わせて1,000あまりに及び島々が点在する「多島海景観」を特徴としており、それらを眺められる展望地が多数存在する。海域は灘や湾の広い海域と瀬戸や海峡の狭い水路が繋がった複雑な構造であり、潮の干満差が大きく、鳴門海峡、来島海峡、音戸の瀬戸などでの渦潮が有名である。また、沿岸部や島嶼部に多い花崗岩の浸食により生みだされた白砂と防風砂防のため植えられた松林が美しい「白砂青松」が多いのも特徴である。沿岸地域にはアカマツ、コナラ、ツツジ類などの二次林が大部分を占め、砂浜の海岸ではハマゴウなどの海浜植物がみられる。

このような自然景観や豊かな生物多様性を保全するため、国等と民間関係団体等が連携し、野生動植物の保護、景観保全等の取り組みが行われると共に、自然観察会など自然とのふれあいの場を提供する事業や、公園内の利用拠点の設備整備を図っている。



塩飽諸島

足摺宇和海国立公園

1955年に足摺国定公園として誕生し、宇和海や海中公園地区の追加指定を経て、1972年に足摺宇和海国立公園となった。本公園は四国南西部の島嶼を含む沿岸部と、内陸部の標高1,000m級の山々から成る変化に富んだ景観が特徴である。

瀬戸内海に属する宇和海地域は、典型的なリアス式沈降海岸で繊細な入江と島嶼景観が魅力であり、多島海景観や断崖、洞窟などが見られる。



宇和海
(出典：環境省HP)

室戸阿南海岸国定公園

徳島県阿南市の橘湾北端から高知県室戸市西端の羽根岬までの約200kmに及び国定公園で、内陸部の指定地は全く存在しない純粋な海岸公園として、1964年に指定された。このうち瀬戸内海区は橘湾の南端に位置する蒲生田岬東端までとなる。

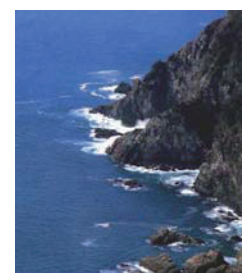
橘湾は沈降によるリアスの多島海岸で10余の小島が点在する。蒲生田岬は四国最東端の岬で灯台からの眺望は素晴らしく、晴れた日には遠く大鳴門橋、淡路島、和歌山県まで望むことができる。



蒲生田岬
(出典：徳島県観光情報サイト)

日豊海岸国定公園

大分県の佐賀関半島東岸から、宮崎県的美々津海岸に至る約120kmのリアス式海岸地域で、1974年に指定された。このうち瀬戸内海区は佐伯市の鶴御崎東端までとなる。佐賀関半島、楠屋崎、四浦半島、鶴見半島の四つの半島が突出し、多島海景観を示すとともに鶴見半島の先端に位置する離島、大島にある「壇の窓」という大きな海蝕洞をはじめ、海食景観が雄大である。



リアス式海岸
(出典：大分県HP)